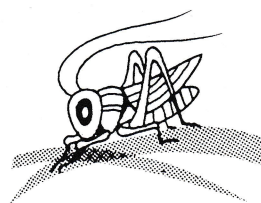




題字 林 邑一

第19号
平成7年9月1日
阿品台地区
コミュニティをすすめる会
阿品台公民館
(TEL39-4338)
阿品台地区人口世帯数
平成7年8月1日現在
人口 男 5,378人
11,203人 女 5,875人
世帯数 3,426 世帯



真夏の夜の夢物語

「コミュニティをすすめる会」

副会長 太田 佳宏

阿品台地区に「コミュニティをすすめる会」が誕生して、はや十年を超えました。その間、町内会も二十六町内会と地域的にも大きく成長し、人口は一万一千余人を数え、廿日市市全体の六分の一を占めるといって一大地域に発展しました。

小学校は二校、中学校、高等学校が各一校それに幼稚園一、保育所二と、廿日市市内では、これだけの地域は他にありません。

イベントも多彩です。夏の「盆踊り大会」に始って、秋には本場島根県から「神楽団」を招へいし、午後の一ときを豪華絢爛な陶酔境

に誘い込む。そして各町内会が趣向を凝らした秋祭りの行事、続いて町内会対抗「ソフトボール大会」、小中学生による「サッカー大会」、これも偏に皆様の御協力

の賜物で、盆踊りも今年で十六回を迎えました。

私は、第一回から関係して参りましたが、その間いろんな思い出があります。最初は二人で徹夜作業で準備をしたこと等、今にして思えば「よくやったなあ」と思

います。現在の実行委員の皆さんの御苦労がよくわかります。「大へんだなあ」と感心しております。

更に戦後を思い起してみると、

早いものでもう五十年になりますね、終戦の年八月二十九日に復員して、広島は的場町の自宅跡に小屋を作ったところ、道行く人に「小屋が出来て人がいる」と言われたこと、台風で小屋が倒れたこと、電車の電柱から電気を引いたこと、ヤミ市のこと、川の流木を集めて小屋を作り替え、畳も十八枚敷いて、友人知人が寄って車座になって酒を飲み交わしたことです。

二十一年には青年団を結成して野球をやったこと、町内会だ秋祭りだ少年野球だと飛び廻ったこと、二十五年にはプロ野球のカープ球団が出来て、父とともに石本後援会の手伝いをしたこと等々、

夏の夜の思い出は尽きないが、考えてみると、あれもこれもみんなコミュニティのためですよね。

何をするにも、一番苦労するのが人間関係でしょう。人と人との結びつきがコミュニティです。みんなが創る地域の輪、大人も子供も男も女も「みんな仲良く住みよい町にしたい。」これが共通の願いでしょう。

私の最後の夢は、いつでもどこでも、笑顔であいさつを交わし、話が出来た町づくりをすることです。みんな息を合せて手を取り合って前進しようではありませんか。

日本一住みよい町づくりのために、みんなで頑張りましょう。

阿品台地区コミュニティ万歳

……

太田さんの夢物語り、ありがとうございます。これにもう一つ寝言を付け加えさせてもらいましょう。

「コミュニティ」の定義については、一般的に学者の数ほどあると言われる中に、「コミュニティとは、自由な個人が、人々の関心の多様性を認めながら、すすんで連帯し、住みよい地域社会をつくって行こうとする集団意識は

社会」であるとも言われております。むつかしいことはわからないが、要するにコミュニティづくりは、上(行政)から押しつけられるものではなく、住民が自ら実践するものである。

人間関係がとかく血縁、職縁を中心に構成される傾向が強かったのに対し、地域を重視し、隣近所の人々との付き合いや対話の中に、人間性を求めて行こうとするもので、住民自らの運動として行われる地域づくりである。

何年前になるか、と言ってもそんなに古い話ではないが、竹下内閣が「ふるさと創生事業」と称して、各市町村へ一億円づつばらまいたことがあった。これは「ふるさとづくり」イコール「行政の施策」と言うイメージを与えたけれど、「まちづくり」も「ふるさとづくり」も住民の参加なくしてはできないものであり、住民の主体性、やる気が事業の成否の鍵をにぎっていると言っても過言ではないでしょう。

いずれにしても、「ふるさとづくり」も「コミュニティづくり」も、究極の目的は、この地域即ち阿品台に住む人が満足し、住んでよかったと誇れるような、魅力のある阿品台をつくることではないでしょうか。

太田さんも、きっとこんな夢をみたのではないのでしょうか。

(広報部の寝坊)

阿品台地区コミュニティーをすすめる会

—平成7年度事業計画—

△△△

阿品台地区住民の心の通う温い「コミュニティーづくり」を推進するため、親睦と連帯を強化する。

△△△

- 一 会議の開催
総会、常任理事会、理事会及び部会。
- 二 出合い、ふれあい、たすけあいの三あいを呼びかけ、住みよい明るい町づくりに寄与する。
- 三 講演会、研修会等を開催し、住民の文化の交流を図る。
- 四 広報紙（ふれあい）を発行し、住民の心の交流につとめる。
- 五 新年互礼会の開催。
- 六 各種スポーツ行事を実施する。
- 七 婦人活動の充実を図る。
- 八 青少年健全育成のための指導体制づくり及びその助成を図る。
- 九 老人会の育成援助するとともに、敬老会などを共催し、老人福祉に寄与する。
- 十 各町内会等の地域活動を奨励し助成する。
- 十一 盆踊り大会などを共催する。
- 十二 公民館活動へ積極的に協力する。

平成7年度収支予算

収入の部

単位 円

科 目	本年度予算額	前年度予算額	比 較 増 減	備 考
会 費	495,000	495,000	0	150 × 3300 世 帯
補 助 金	200,000	200,000	0	市 補 助 金
繰 越 金	57,809	61,452	△3,643	前 年 度 繰 越 金
雑 収 入	1,191	1,548	△ 357	預 金 利 息
計	754,000	758,000	△4,000	

支出の部

単位 円

科 目	本年度予算額	前年度予算額	比 較 増 減	備 考
会 議 費	10,000	10,000	0	
部 活 動 費	570,000	570,000	0	
その他活動費	110,000	110,000	0	
事 務 費	64,000	68,000	△4,000	
計	754,000	758,000	△4,000	

（部活動費内訳）

単位 円

広 報 部	120,000	120,000	0	
文 化 部	80,000	80,000	0	
福 祉 部	80,000	80,000	0	
体 育 部	80,000	80,000	0	
婦 人 部	80,000	80,000	0	
青 少 年 部	80,000	80,000	0	
老 人 部	50,000	50,000	0	

今年の主要行事



○盆踊り大会

去る八月五日（土）例年どおり東小学校グラウンドで盛大に開催されました。

各町内会、子供会の御協力をいただき無事終了することができました。厚くお礼申し上げます。実行委員のみなさん御苦労さまでした。



打上げ花火とともに県民踊のみなさん



踊らにゃ 損、損……

○文化行事（石見神楽）

十月十四日（土）
東小学校体育館

文化行事として、島根県大和村の神楽同好会を招へいし、石見神楽を上演して今年で三回目、好評を続けているので、今年は「大蛇（おろち）退治」を加えることにしており、一段と迫力あるものが見られそうです。乞う御期待!!

昨年までは、こんな行事があることを知らなかった人もあったとか、PR不足をおわびします。今年は是非お見逃しなく、みんなで見に来てね!!

今後の行事予定は、次のとおりです。
多数の参加と御協力をお願いします。



○秋祭り

十月廿五日（日）

各町内会で実施
今年も各町内会ごとに、趣向をこらして楽しい祭りにして下さい。



○町内会対抗ソフトボール大会

十一月五日（日）

東小・中学校グラウンド
この大会も今年で十二回を迎えることになり、選手のみならずも年々年令を重ねて、次第にチームの編成が困難になるという事情もあるようですが、若返りの一策として、また、息子さんにも出番を与える等して、この大会の灯を消さないように、更に大会を盛り上げるよう格段の御協力をお願いします。
お父さん、お兄さん頑張ってください!!

○青少年親善サッカー大会

十一月十一日（土）

東小・中学校グラウンド
昨年初の試みとして始めた大会ですが、幸い昨年は二十八チーム三〇〇名に及ぶ参加があり大盛況でした。

今年も是非昨年に勝るとも劣らない大会にしたいと思っておりますので、奮って参加して下さい。期待しています。

「さあいらっしやい 安くておいしいよ……」



婦人部

料理講習会に参加して

二目 大西 紀美子

「お寿司の合せ酢は、熱熱の御飯にかけて蒸らして下さい。」うちわ「であおがなくていいんですよ」

「えーノ今まではバターとあおいで冷ましていたワ」
「そぼろ卵は、酢を入れると、きめ細かくきれいな山吹色に仕上がりますよ」
「本当にきれい。感激!!」と阿

品台公民館三階の一角、料理教室から漏れる話声、時折にぎやかな笑い声も響いてきます。おいしいそうなの匂いも漂ってきます。

月一回、食品メーカーさんから材料の提供と、講師の方の協力を得て開催されている料理講習会の一コマです。

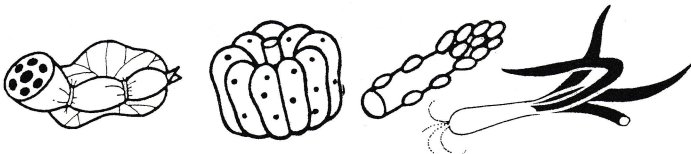
この日の献立は
○シーフードと根菜のあったか寿



「うちわ」であおがなくていいんですよ…



教えられたり、教えたり……



司

○ 鮭の黄金和え

○ 紅白なます

○ ポテトとアスパラのほくほくサラダ

○ 紅白牛乳寒のフルーツパンチ

でした。

私も、昨年十月から、婦人部の部長さんから「良かったらきてみませんか?」と声をかけて頂き、参加させて頂いています。

主婦業何十年かの私ですが、まだまだ知らないことも多く、沢山のことを学ばせて頂いております。

おいしいお料理に舌鼓を打ちながら、御一緒にさせて頂く方達とのふれあい、話し合いが持てること、とても素晴らしいことと思っ



だんだん出来上ってきました

ております。

“同じ釜の飯を食べた仲間”といいますが、仲良くなる一番の秘訣は、一緒に食事をすると言われます。

この料理講習会の場をお借りして、一人でも多くの方とのふれあいができますように、そして、その一つひとつの出会いを大切にしたいと思っています。

小さな輪が大きく大きく広がっていきますように……

編集後記

次回発行は十二月下旬を目標に、十一月中に編集したいと思っています。
話題をお寄せ下さい。お待ちしています。
広報部のみなさん御協力ありがとうございました。